

## 第5章 日本労働組合総連合会 大阪府連合会の取組

日本労働組合総連合会大阪府連合会（以下、連合大阪）は、めざすべき社会像として「働くことを軸とする安心社会」を掲げ、「働くこと」に最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもとで、社会に参画するための取組を推進している。政府の「一億総活躍社会」の実現は、働き方改革の取組が大きな柱となっているが、労働の質、すなわちディーセントワーク、「働きがいのある人間らしい仕事」という観点にこだわった取組が肝要と考えている。この改革が労働組合のない職場で働く未組織労働者も含め、すべての働く者の立場に立った「働き方改革」となるよう、連合大阪は関係団体と連携し、強力に取組を展開してきた。また、一方で、人工知能（AI）やIoTなどの技術革新による働き方改革への対応にも、近い将来、職場や仕事がなくなってしまうかねないとの危機感をもって、労働組合が能動的、自発的に取り組んでいかなければならないと考えている。

### 5 若者の活躍促進

大阪における雇用環境は着実に改善しているが、若年層についてはまだまだ厳しい状況にあり、連合大阪はキャリア教育の推進に注力している。子ども期から「働く」現場を見学し体験することにより、働くことの楽しさ、難しさを知ること。さらにその体験を通して職業観、就労観の醸成につなげていくことを目的として、2005年から小学生を対象に「Kids 職場見学会」を開催し、高校には就労前教育への講師派遣に取り組んでいる。また、連合大阪単独で初めての寄付講座として、大阪市立大学経済学部で「労働経済論特殊講義1」～働くということと労働組合～を実施した。講義内容は、「働くこととは」、「労働者の権利とは」「労働組合、労働運動とは」等を柱に、そして労働市場と現場で生じている諸課題等については、産業別労働組合の役員や研究者を講師に招き、専門的な知見による講義をおこなってきた。このような教育活動を通じて、ともに学び、経済・社会活動を担っていく人材育成に取り組んだ。

連合大阪でも次代を担う若手労働組合役員を対象に「次世代リーダー養成講座」を開催し、現在の職務にとどまらず、幅広い知識と公正な価値観を備え、経営側ともしっかりと対話ができ、組合員の相談にのれるリーダーの育成をめざした取組を行っている。

また、2015年より地域の活性化と地域で働く者の労働条件向上とは、車の両輪で進めるべきものとの観点から、全国の地方連合会で「地域フォーラム」を開催している。連合大阪も働く者の賃金の「底上げ・底支え」「格差是正」の実現に向け、2017春闘方針で取組を確認し、大阪府域の各地域での開催をめざし、2015年には大阪南地域（堺市）で初めて開催し、2016年は河内地域（東大阪市）で開催してきた。今年の2017年には北河内地域（枚方市）で「LO活で見つけよう！私たちの未来をこの街で」をテーマに、地域

で学ぶ学生と地域で活躍している企業の架け橋となる取組を計画している。

※LO 活（「ローカル就活」を略した造語）とは・・・厚生労働省が主導している大学生の地方での就職を支援するプロジェクト。

<主な取組>

- ・ 連合大阪の加盟組合を基本に職場見学会（体験）を開催【4コース】（対象：小学生）
  - ① 阪急電鉄株式会社 正雀工場（私鉄総連）7月25日（火）※運輸業
  - ② 日本郵政株式会社 新大阪郵便局（JP労組）8月23日（水）※運輸・郵便業
  - ③ パナソニックサイクルテック株式会社（電機連合）8月7日（月）※製造業
  - ④ 株式会社近鉄百貨店 あべのハルカス本店（UAゼンセン）8月17日（木）※百貨店・総合スーパー
- ・ 連合大阪「2017 地域活性化フォーラム in 北河内」の開催（2017年6月）
- ・ 大阪まちひとしごと創生推進会議や大阪新卒者就職応援本部への参画